

このことの例として、ムスリムたちが い 国に住む同胞たちに する虐待や抑 へ避 しているのをテレビなどで目にする 合の反 が げられます。ムハンマドのウンマにおいて、もしその一 が つけられていたのなら、他の全 にとってもその痛みは本物なのです。ムスリムは 理的に正しいことに立ち上がり、非人道的なことはイスラ ムとは なものです。ウマルブンアル=ハッタ ブはこの独自の特 をすぐに解し、自らをウンマの一 として宣言したのです。

ウマルブンアル=ハッタ ブがイスラ ムを受け入れたとき、彼はこの共同体の一 となることを望み、そのことを高らかに宣言しました。ウマルは喜びの中にあっても、悲しみの中にあってもこの共同体の一 となることを めたのです。彼の改宗の 、ウンマの中の弱き人々が 的な虐待と抑 を被っていましたが、彼はその苦しみを理解するようになり、また彼自身も 去にそれを行っていた事により、自らもそれを することを望みました。ウマルは彼のイスラ ムへの改宗が 付かれないものとするのを望まず、ただちにイスラ ムの にしてそのことを公言しました。

当初、イスラ ムに改宗していなかったマッカの人々はウマルの改宗に してショックを受け、すぐには反 しようとしませんでした。その噂は まり、彼らは神の へと向かってウマルを しました。大で筋肉 な勇士である彼は、 者たちの真ん中に座り み、その攻に甘んじました。ウマルの心はイスラ ムの同胞に する 情で溢れていました。言者ムハンマドはこう言っています。「 に私の に 言者が出したとすれば、それはウマルブンアル=ハッタ ブだっただろう。」

力よりも大きなもの

ウマルはアブ バクル アッ=スィッディ クと共に、言者ムハンマドに最も近かった教友でした。アリブンアビ タリブが えるところによると、言者ムハンマドは、朝にアブ バクルとウマルを えて出し、夜も同 に二人を えて ってきたということです。言者自身、彼ら二人を自らの目と耳であるとし、二人を「地球の住民における忠言者²」であるとしています。ウマルは、ムスリムのウンマにおける危 と のすべてにおいて、言者ムハンマドの に立っていました。

1 サヒ フ ブハ リ 、サヒ ム ムスリム

2 アッ=ティルミズィ

3 イブン カスィ ル著の「正 カリフ 」より

4 アッ=ティルミズィ

6 サヒ フ ブハ リ 、サヒ ム ムスリム等

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/2134>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。